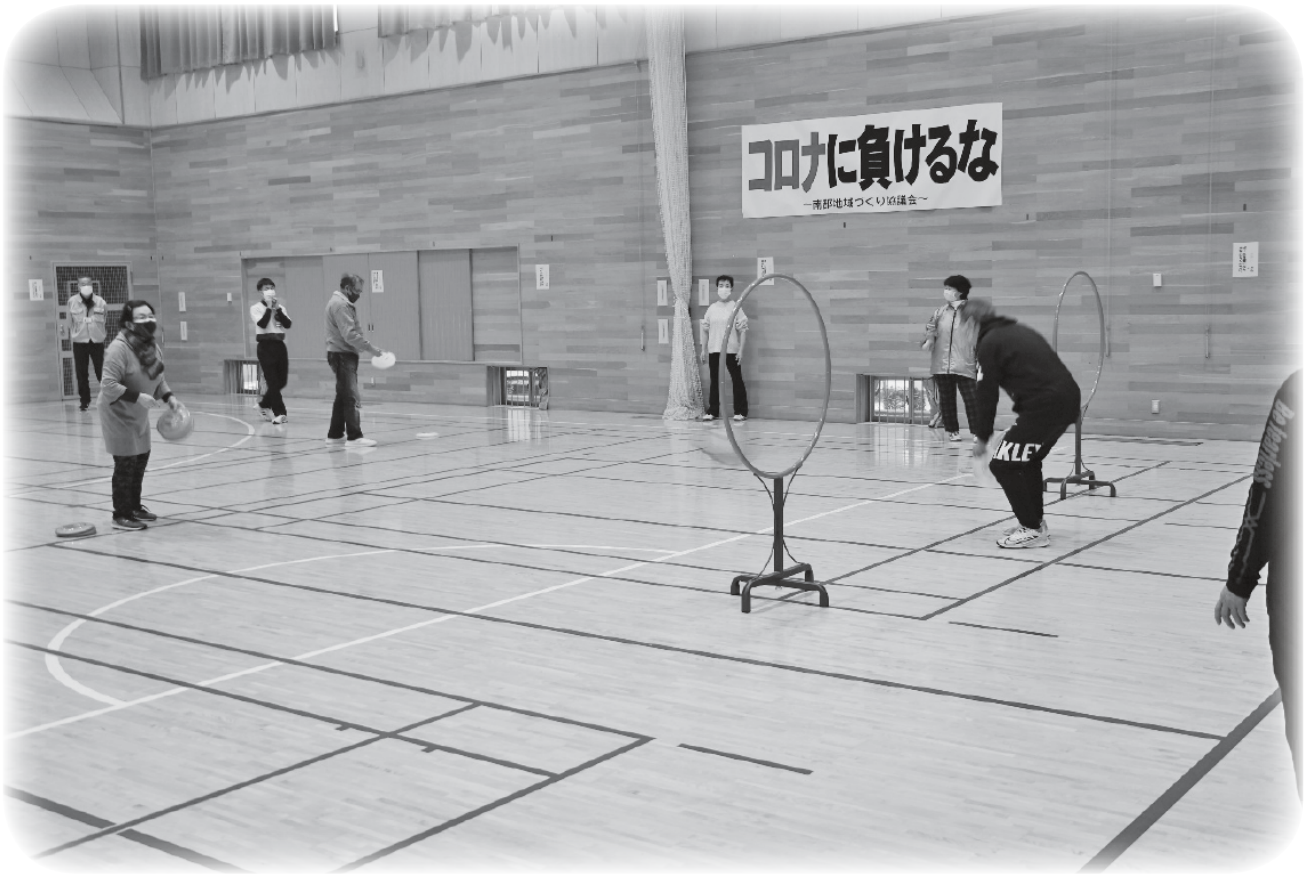


あしたの風

第94号

令和4年2月1日 発行
編集発行 秋田市教育委員会
生涯学習室

秋田市の生涯学習



フライングディスク
～南部地区～

☆☆中央地区☆☆

私の来し方

中央地区生涯学習奨励員 佐々木 孝

高校卒業の昭和二十七年、私は小さい頃からやっていた柔道で腰を痛め、自宅療養することになった。それから足かけ五年、寝ている時は、ギブスベッドという石膏の鑄型に仰向けに納まり、起きている間は、鎧の様なコルセットを装着して五年間を過ごした。その間、高校時代の同級生は着実に進学し、私がようやく起居できる様になった頃には、そろそろ卒業の時期に差し掛かっていた。

当時はテレビも普及しておらず、寝ている間の大半は、ラジオか或いは読書で過ごした。だから、その間の読書量は相当な量になる筈で、恐らく五百冊は超えていたと思う。

その頃は丁度全集時代で、角川の文学全集を始めとして、外国文学や、思想、哲学などの全集が次から次へと出版された時代であった。

やっと大学に入学した時は、高校時代の同級生たちはそろそろ卒業という時期になっていた。

大学では建築学を専攻した。その時の建築学科は何故か同級生に浪人が多く、現役生はほんの一握りであった。中でも私は最年長の方で、その他ほとんどが同世代だったから、一種の安らぎを覚えたものである。先生も変わり種が多く、教室で煙草を吸ったり、そばを食いながら講義をする先生もいた。

就職は最初から三菱地所を狙った。理由は、尊

敬する大半の先輩が、三菱地所を志望してハネられた事に対する反発である。当時は片親、浪人、水商売は上場企業を志望する際の三大弱点とされ、私の場合、この三拍子が揃っていたので恐らく難しかろうと思っていたが、蓋を開ければ見事合格で、この時は本当に嬉しかった。学生時代から知り合っていた名古屋出身の同期生も同じ部所に配属され、再会を喜んだものである。

数年後、日本とカナダの建築家協会が協定を結び、研修生の支援を行った。全国から十名の募集であったが、私の勤務する三菱地所からは三名応募し、全員合格となった。三名はそれぞれ、モントリオール、トロント、そしてカルガリー市の建築事務所へ派遣された。私はカルガリー市であったが、当時はカナダの諸事情にも疎く、とんだ田舎と思いきや、今の仙台市ほどの町であった。

カナダで三年ほど過ごした後、アメリカ東部のハーバード大学院に留学した。同大卒業後、ニューヨーク市の設計事務所へ働いていた時、かつて働いていたカナダの事務所から声がかかり、再びカナダに帰った。カナダでは、大学や住宅団地、協会などの仕事に従事し、二年後に日本に帰国した。出国以来五年ぶりの帰国であった。

帰国してから、地所時代尊敬していた先輩の自立した事務所へしばらく設計を行った。

平成四年の元旦、突然大学の先輩から電話があり、国立秋田工業高等専門学校の教授としてどうかとの誘いがあり、家人と相談した上で応諾をした。

平成四年四月、私は国立秋田工業高等専門学校の教授として、故郷での新しい一歩を踏み出すこ

とになった。建築の教育は、これまでも横浜国立大学での十数年の経験があり、スムーズに環境に慣れることができた。
現在、生まれ故郷の秋田に戻り、NPO法人秋田バリアフリーネットワークの創設理事として活動を続けている。



☆☆西部地区☆☆

楽しく描く「パステル和アート」なごみ

和アート「ころ」

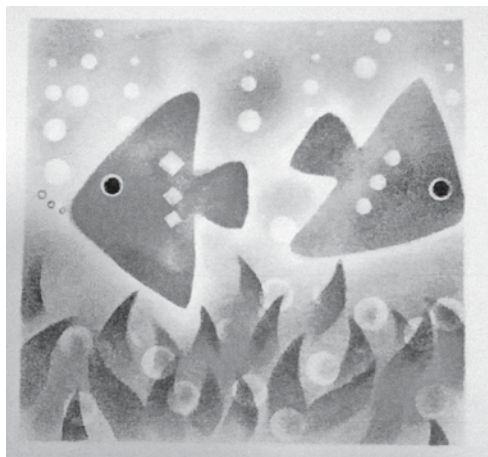
西部地区生涯学習奨励員 佐藤 清子

「パステル和アート」とは、パステルをパウダー状に削り、指で画用紙に絵を描く、素朴で独特な技法です。子供から高齢者まで、絵心のない方も短時間で簡単に楽しく絵を描くことができます。

私と「パステル和アート」との始まりは、県生涯学習センターの行動人でも紹介されている、高橋みどりさんの作品との出会いからです。はがきサイズの中に、パステルの持つ何とも言えない、ほんわりとした優しさの感じられる絵でした。みどりさんの描く絵には、四季の草花が浮かび上がり、その背景には風を感じられる、そんな素敵な作品になっています。

それからは、現在の活動メンバー四人で、インストラクターである高橋みどりさんから指導を受け、準インストラクターを取得しました。指導を受けている時間は、まさに、和みの時間でした。自分で描いて楽しいこと、気持ちいいことを、多くの人達にも感じてほしくて、「和アート「ころ」」を立ち上げ、平成二十七年から、普及活動を開始し、社会教育施設との連携、ワークシヨップ、町内会などで、活動してきました。簡単で楽しい、そして、フリーハンドで誰にでもできるのが魅力です。一度の受講で一人だけでも楽しめるようになりますが、大勢のほうが、おしゃべりしながら、完成した作品をシェアしたり、もともと楽しんで描くと思っています。

ここ二年間はコロナ禍の影響で自粛しておりましたが、今年こそは、子供から高齢者の誰もが、心が穏やかにになり、気持ちが元気に健康になれたらと、「パステル和アート」の楽しさをお届けしたいと思っています。



パステルの持つやさしさが感じられる



子どもから高齢者まで楽しく絵を描ける

☆☆南部地区☆☆

誰もが楽しめる

「フライングディスク」に参加して

南部地区生涯学習奨励員 中川 久美子

日常何となく耳にしていた「フライングディスク」を初めて体験することができました。

講師の下間直人先生より「フライングディスク」の歴史や種目、ルールなどを講義していただきました。その後実技指導でスローイング（投げ方）、キャッチング（受け方）を教わり、思ったより奥の深い競技だと感じました。はじめは、直径二十四センチほどのディスクを二人組で、スローイングとキャッチングにチャレンジしました。思うようにディスクを投げられず、まっすぐに投げる難しさを感じました。でも、やっているうちにだんだん飛ぶようになり楽しくなってきました。

その後「アキュラシー」という競技で大きなリングにディスクを投げ入れて点数を競ったり、「ディスクゴルフ」という、高さのある籠の中に鈴がついた物にディスクを投げ入れ、入ると鈴が鳴り、目に障がいのある人も参加できる競技もありました。

ゴールにむかって少ない回数で投げ入れる楽しさも味わいました。更にペットボトルに水を入れた物を並べてディスクで倒す競技等、シンプルですがやる度にどんどん引き込まれました。ディスクを使った楽しみ方がたくさんあり、体を動かさそうと思わなくても知らず知らず全身を使い、心地よい汗をかくことができました。

子どもから大人、そして障がいのある方もバリアフリーで楽しめるステキな競技でした。多くの人に

体験してもらい、広めたいとも思いました。「フライングディスク」は本来野外での活動が原点の競技のようなので、今度は自然の中で思いっきり「フライングディスク」を楽しんでみたいものです。



まっすぐに投げるのは難しい



シンプルながら奥が深い

☆☆雄和地区☆☆

「熊出没注意！」

生涯学習奨励員研修会に参加して

雄和地区生涯学習奨励員

雄和自然観察協会 伊藤 隆 志

みなさんは野山で熊に出遭ったことがありますか。数年前、鹿角市十和田大湯でタケノコ採りをしていたグループがツキノワグマに襲われ四人が死亡、四人が重軽傷を負った事故がありました。その後、県内各地で熊の目撃情報が新聞、テレビ等で報道されるようになりました。私の住む雄和地区でも田んぼの畦道、河川敷、畑等で見かけるようになりました。

秋田県生活環境部ではツキノワグマ被害対策支援センターを設置しました。良い機会と思い、生涯学習奨励員の研修会で熊の生態について学ぶこととしました。当日は、秋田県自然保護課職員により「野生動物の生態と対策について」と題して二名の方より講話をしていただきました。熊はなぜ人を襲うのか、熊の一日の過ごし方、一年の生活、木登りが得意で足が速い、泳ぎが上手、運動神経抜群であることなど、見た目とは大分違うのだと知りました。

熊と出遭ったら死んだふりをすればいいなどとは遠い昔の話です。山に入る時は二人以上で鈴やホイッスル、熊スプレーを携帯するようにとのことでした。それでも絶対安全とはいえません。

また、秋田県内では最近イノシシやニホンジカ

の農作物の被害が増えてきているとのことで、興味深いものでした。

山には熊、イノシシ、キツネ、タヌキ、鳥、へびなど沢山の動植物が生息しています。人間だけのものではありません。生物多様性の大切さ、自然に対しての畏怖畏敬の念を忘れてはいけません。熊は熊らしく生きており昔から変わっていないと思います。人間の生活圏に出没するようになってきたのは人間の都合がそうさせたのではないのでしょうか。



研修で熊の生態について学ぶ

《地域とともにもつともを育む》

岩見三内小・中学校

校長 菊地 洋文

本校は今年度、校舎一体型小中学校併設施設として十周年の節目を迎えることができました。

本来であれば本校教育を支えてきてくださった皆様や陰となり日向となりご支援してくださる地域の皆様とともに祝いするところなのですが、新型コロナウイルス感染症予防のため規模を縮小した式典となったため、皆様をお呼びすることが叶いませんでした。本当に残念に思います。

さて本校の学校経営方針には「地域に根ざした特色ある教育活動」ふるさとの人材や素材の活用」と掲げています。実際、小学生が岨谷峡、殿淵などを訪れたり、地域のお店などを訪問してインタビュー等させていただいたり、中学生が岩見三内川に入って生物観察したりしています。また、小学五年生は、地域の田んぼをお借りして、田植え、稲刈り体験をさせていただいたり、小学校三、四年生は地域の果樹園を訪問して、りんごの摘果作業や収穫を行わせていただいたりしています。これは秋田市内でも行っている学校は少ない取組とされています。



9月17日(金) 小5 稲刈り体験



10月6日(水) 通学路での見守り



10月16日(土) 十周年記念式典、煌めき祭

どの子も初めての体験や初めて見る景色に目を輝かせていました。体験後の振り返りにはみんな、「楽しかった」「とっても綺麗だった」「岩見三内は自然が豊かだと分かった」などと書いています。このような体験ができるのも地域の皆様の「学校と一緒に子どもたちを育てていきたい」という思いのおかげだと感謝しております。このほかにも、近くの交差点では、地域の方が子どもたちの安全を見守ってくれています。地域の皆様に支えていただきながら、次の十年に向けてさらに歩みを進めて参りたいと思います。

令和三年度
秋田県公民館連合会表彰

表彰者(個人)

南部地区生涯学習奨励員

藤原 博子

おめでとうございます。
今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます。

※敬称略



今回はオンライン開催でした。
(写真左側は生涯学習室 浦山室長)

【令和三年度研究大会について】

第四十二回秋田市生涯学習奨励員

研究大会を開催しました。

令和三年十一月十七日、秋田市文化会館を会場に研究大会を開催しました。

今年も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度同様、施設見学および情報交換会は開催しませんでした。五十二名が参加し、講師である鈴木裕之先生（すずきクリニック院長）の講話に、熱心に耳を傾けていました。

この場をお借りし、鈴木先生に改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

秋田県生涯学習・社会教育研究大会
(記念大会)がオンライン開催されました。

令和三年十一月十二日、県が主催する記念大会がオンラインで開催されました。

本市でもセンタースや雄和市民サービスセンターの地域文化ホールをサテライト会場として映像を配信し、生涯学習奨励員をはじめとする関係者の方々が参加しました。



市研究大会では健康について学んだ。



県の研究大会には十名が参加した。

編集後記にかえて

明けましておめでとうございます。長らく続いていた新型コロナウイルスに係る騒動も、ようやく収束の兆しが見えたように思われていた矢先、今般のオミクロン株の脅威である。「三密」や「マスク会食」等の言葉が過去の流行となるには、まだ少し時間がかかりそう。

とはいえ、日々の生涯学習活動にはじまり、昨年のオリンピックや、年初の各地の成人式等を見ていると、人々の間でも、コロナ対応への意識が浸透し、対策も洗練されてきているように感じられる。

さて、広報あきたは今年で二千号、七十年の節目を迎えた。大変おめでたいことである。本誌も末永く刊行していきたい。

「他人や過去は変えられないが、自分と未来は変えられる。」という言葉がある。

先の見えない時代ではあるが、今年はより良い「未来のために行動する一年」としたい。

(石塚)

奨励員の手引きを配布します。

県が刊行する生涯学習奨励員の役割やQ&A等を記載している冊子で、令和三年十一月改訂版の手引きとなります。一人一冊の配布となります。

なお、同冊子は、県ホームページでもご覧になれます。

県ホームページのアドレスはこちら
pref.kita1g.jp/pages/archive/61176

編集委員 (秋田市生涯学習奨励員)

- 佐々木 孝(中央) 佐藤 美枝子(土崎)
- 佐々木 裕佳子(西部) 坂田谷 義憲(東部)
- 藤原 博子(南部) 中泉 雪子(北部)
- 石塚 小枝子(河辺) 石井 榮美(雄和)

『あしたの風』第九十四号

発行年月日

令和四年二月一日

編集発行

秋田市教育委員会生涯学習室

秋田市山王一丁目一番一号

電話 〇一八—八八八—五八一〇

この広報誌は

発行部数 一一〇〇部

配布方法 無料配布